

## 自分の力で

神奈川県川崎市  
株式会社ニチイケアパレス  
ニチイホームはるひ野Ⅱ番館  
藤原 慎一郎

### 1 はじめに

対象のお客様はK様82歳男性、要介護度3のお客様である。海外赴任の仕事が主だった為、英語、フランス語、ドイツ語がお得意である。67歳で仕事を退職されゴルフ三昧の生活を送っていたが、脳梗塞を発症され左半身麻痺の後遺症が残りリハビリ病院でリハビリを行い、老健で生活され平成25年8月に現ホームに入居される。

既往歴：脳梗塞、糖尿病、尿管結石、前立腺肥大、脊柱管狭窄。

### 2 事例や取り組みの紹介

入居された時よりも下肢筋力の低下がみられ、昼夜逆転されており夜間の睡眠が不十分であった為、ラジオ体操や介護予防体操等を行う事で下肢筋力低下の抑制と日中の離床時間が増える事によって夜間の睡眠改善に繋がると考えた。始めた当初は、参加を促しても拒否されることも多かったが、声かけの際に「日中身体を動かす事によって夜間の睡眠に繋がるのではないかと提案してみたところ、ご本人様は納得され参加された。

その他に、リビングから居室まで約15メートルの距離を自走して頂き、下肢筋力の向上に努めた。

しかし、3月中旬より目がかすむという訴えがあり4月の眼科受診にて白内障と診断され、それに伴い趣味であった読書も出来なくなり意欲の低下が顕著に見られた。その後もラジオ体操や介護予防体操に参加を促すも、拒否や参加をして頂いても傾眠される事が多くなり日中の活動量が低下し、食欲も低下傾向になった。6月中旬の往診医のムンテラより鬱症状もみられる為、ご本人様の意思を尊重し一旦中止となる。9月に入り食欲の低下、咽込みが顕著となり禁飲食となり、現在は入院加療中だが、病院にてリハビリを行っている。

### 3 考察

始めた当初はラジオ体操や介護予防体操の参加を拒否される事が多かったが声かけを工夫する事により参加して頂けたが、白内障を発症され、趣味であった読書も出来なくなってしまった事で意欲の低下に繋がってしまい長期的に行うことができなくなってしまった。

下肢筋力に拘らず、麻痺側の可動域訓練や自走距離を延ばす訓練等も考えるべきだった。

#### 4 おわりに

今回の事例研究は白内障の発症に伴い意欲の低下、鬱症状も見られた為、ご本人様の意思を尊重し中止となってしまったが、事例研究を通してお客様の心理状態や身体の状態をしっかり把握しておかなければいけないと改めて感じた。今後、介護をやっていく上で良い経験になったと思う。